

意味がわかるとゾツとする話

3分後の恐怖

冷たい雨

107

二人乗り

101

天気雨

95

展示室

89

地下エレベーター

83

足跡

77

上り電車

35

いまもいる

29

山小屋

23

つぶやき

17

リフト

11

カラス

5

あとがき

150

付録

137

夜の訪問者

131

迷い道

125

神隠し

119

眠い

113

近道

71

図工室

65

立ちすくむ記憶

59

尋ね人

53

ぞろぞろ

47

崖の上の家

41



カラスは街の嫌われ者。

ゴミをまき散らしたり、ときには人を威嚇することもある。

それでもボクは、カラスが嫌いではない。

大きい鳥は好きだし、頭もいい、羽根の色もきれいだ。

ボクには、顔見知りのカラスがいる。

毎朝通る川沿いの四本目の街灯の上にいる。

声をかけると、ガードレールまで降りてくる。しばらく立ち止まって見ていても逃げない。

無言の会話って感じ。

「じゃあね」って言うと一声鳴いて飛び立つ。

平日の学校の行き帰りはそんな感じだった。

ある休日、友人がこんなことを話し出した。

「近所に変な家があるんだよ」

友人の家の近くに最近空き家になった家があるのだが、その前を通ると決まって、
その日の夜、必ず金縛りになるらしい。
ボクに特別な力はないのだが、家がお寺なので、一度いっしょに、その家を見てほしいそうだ。

「外から見るだけならいいけど」

断る理由もないのに、いっしょに行こうとした。

それは住宅地の中にあるそれほど古くはない家だった。

近づくにつれて、なぜか空気がどんどんより重くなつたように感じた。

「ね、なんか変じゃない？」

友人はその家の前で尋ねた。

「空気が重く感じるけど、きっと気のせいだよ」

ふいに背後に気配を感じた。

家から何かが迫ってきたような気配に鳥肌が立つた。

「空き家だよね」